

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2003. 10

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 234

日本野鳥の会 埼玉県支部

ているため、1970年から5年毎に調査地数、越冬数、調査地一ヶ所当たりの越冬数を全国、埼玉県、当支部に分けて示す(表4)。

全国の値では、1970年約2,000ヶ所で100万羽の越冬数を得ているが、2,000年に調査地数が2.8倍に増加しても越冬数は200万羽と2倍に止まっている。一方、埼玉県では2003年158調査地の越冬数が、1970年8調査地の越冬数に達しないという厳しい結果と成っている。調査地一ヶ所当たりの越冬数は全国、埼玉県、埼玉県支部とも激減している。

まとめ

1990年代半ば頃から夏鳥の減少がいわれて久しいが、上述のように冬鳥であるカモ科減少は1970年代から始まっている。主な繁殖地である東シベリア、渡り中継地、越冬地の日本、それぞれの環境悪化と狩猟が原因と思われる(小荷田2003)。(小荷田行男、石井 智) 文献

環境省自然環境局 2001 第32回ガンカモ科鳥類の生息調査報告書 環境省 東京
小荷田行男 2003 急減するトモエガモ! しらこばと No.226 日本野鳥の会埼玉県支部 さいたま

表2 カモ科種別越冬数の変遷

	マガン	コハク チョウ	オシドリ	マガモ	カルガモ	コガモ	トモエ ガ	ヒドリ ガ	オナガ ガモ	キンクロ ハジロ	ミコアイサ	カワアイサ	一ヶ所当 りのカモ 科越冬数	カモ科 全種 の合 計	調 査 所 数
1982	0	8	27	3,758	16,800	10,108	20	1,607	7,138	67	8	11	827	38,892	47
1983	0	0	18	5,260	14,617	8,724	14	604	6,687	267	4	13	641	36,547	57
1984	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1985	0	11	12	5,272	11,101	7,345	33	1,325	4,120	90	2	0	1,963	29,441	15
1986	0	42	11	6,827	6,855	2,994	199	285	3,927	173	0	48	2,204	22,040	10
1987	2	31	108	7,882	7,662	4,285	195	1,068	3,678	102	0	20	1,925	26,951	14
1988	0	30	16	4,445	6,095	3,448	18	802	3,049	282	5	20	2,370	18,958	8
1989	0	14	1	4,211	4,930	5,828	8	374	1,847	249	2	18	2,404	28,848	12
1990	0	0	17	4,799	3,806	3,858	65	687	2,270	194	1	6	1,600	24,007	15
1991	0	0	11	6,138	4,040	3,087	68	441	1,931	168	17	22	1,222	20,779	17
1992	0	3	80	7,268	6,742	5,234	44	984	3,322	238	71	53	1,625	29,248	18
1993	1	61	3	6,339	3,919	3,158	6	1,416	2,963	198	71	29	1,183	21,291	18
1994	0	98	41	8,124	5,155	4,434	16	1,603	4,075	221	49	23	1,175	25,859	22
1995	1	147	22	9,081	3,587	3,200	17	1,881	3,292	277	35	31	1,280	24,316	19
1996	0	113	2	5,825	3,021	2,971	4	2,257	2,828	202	60	52	1,039	18,705	18
1997	1	77	0	5,800	2,106	2,299	2	1,484	2,743	143	12	0	903	17,157	19
1998	0	0	0	3,182	1,225	1,083	14	630	805	119	3	18	737	7,371	10
1999	0	80	1	5,992	2,923	3,393	15	1,820	1,734	367	29	11	851	21,273	25
2000	0	0	5	1,063	639	1,014	0	363	279	66	17	16	448	4,034	9
2001	0	146	1	3,795	3723	3,432	43	2,513	2,258	439	65	57	925	19,427	21
2002	0	135	178	3,159	2,782	1,699	8	1,459	1,762	543	170	10	557	13,361	24
2003	0	185	213	3,291	2,124	1,996	25	1,247	2,329	486	43	9	652	13,698	21

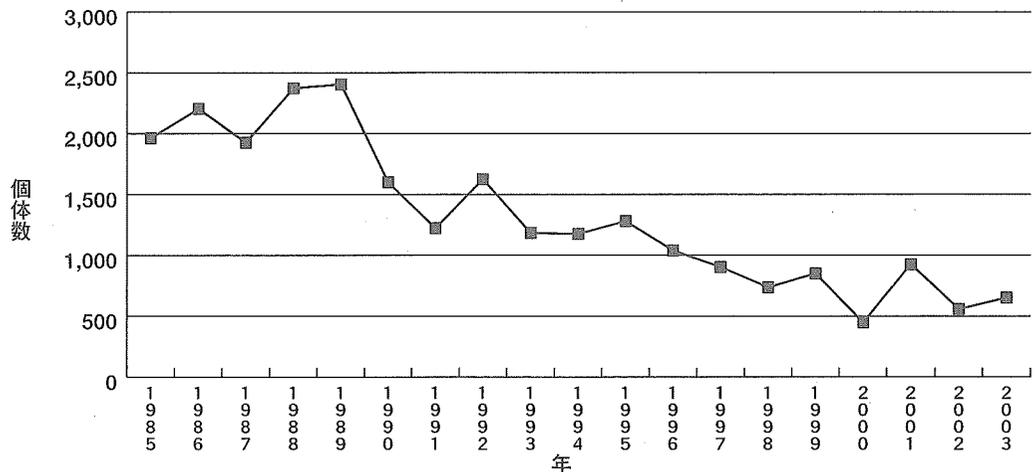


図 調査地一ヶ所当たりのカモ科越冬数

表3 調査地1ヶ所当たりの種別越冬数

	'85～'89の平均	'99～'03の平均	'85～'89の平均を 100としたときの '99～'03の値
マ ガ ン	0.03羽	0羽	0%
コハクチョウ	2.41	4.91	204
オシドリ	2.34	3.64	156
マ ガ モ	518.96	166.03	32
カ ル ガ モ	648.46	116.45	18
コ ガ モ	402.36	115.53	29
トモエガモ	7.79	0.83	11
ヒドリガモ	64.91	70.59	109
オナガガモ	239.01	78.44	33
キンクロハジロ	17.32	17.74	102
ミコアイサ	0.19	3.06	1,611
カワアイサ	3.05	1.16	38
そ の 他	420.37	113.02	27
合 計	2,327.2 羽	691.4 羽	30%

表4 日本におけるカモ科越冬数の変遷

	全 国			埼 玉 県			埼玉県支部		
	調査地数	越冬数	越冬数 1ヶ所	調査地数	越冬数	越冬数 1ヶ所	調査地数	越冬数	越冬数 1ヶ所
1970	1,977	1,014,565	513	* 8	* 37,715	* 4,714	-	-	-
1975	2,689	1,346,480	501	* 10	* 25,701	* 2,570	-	-	-
1980	3,212	1,202,929	375	* 41	* 52,389	* 1,278	-	-	-
1985	3,214	1,547,381	481	* 61	* 66,160	* 1,085	15	29,441	1,963
1990	4,337	1,721,086	397	** 102	** 53,722	** 527	15	24,007	1,601
1995	4,895	1,831,530	374	** 147	** 53,906	** 367	19	24,316	1,280
2000	5,612	2,027,965	361	** 149	** 34,500	** 232	9	4,034	448
2003	未 発 表			** 158	** 36,065	** 228	21	13,698	676
データ 出 典	(環境省自然環境局2001)			** 埼玉県みどり自然課 * 環境省生物多様性センター			日本野鳥の会 埼玉県支部研究部		

第10回野鳥密漁問題シンポジウム に参加しました

福井恒人（さいたま市）

頃は平成14年極月（12月）22～23の両日、代々木は国立オリンピック記念青少年総合センターという、舌を噛みそうな長い名前の場所で開かれたシンポジウムのことです。青少年とはちょっと言いにくい私が参加いたしました。

なぜこんなに遅くなってから報告するのかと申しますと、一応埼玉県支部を代表する立場で出席したものですから、ちゃんと報告しなければ旅費などの費用を出してやらないぞと役員会で厳命を受けておりましたので、何とか報告しようと長い月日をかけて文章を練りに練り、ようやく報告をするという、律儀な私なのです。

「鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律」の大改正（平成15年4月15日施行）を含む「密漁鳥の行方—私たちにできること—」がテーマでした。

改正の主な点は、法律の名前が「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」に変わったこと、文章が平仮名書き口語体になったこと、罰則規定が変更され、50万円の罰金が100万円に、30万円が50万円になったこと、対象外だったアザラシが含まれたこと、などです。

第1日目は、違法販売の実態と摘発例が、本部、各支部、行政担当者から発表されました。

山階鳥類研究所の茂田氏の「識別鑑定による違法販売の摘発」、岡山県鳥類標識調査員岩田氏の「メジロの違法飼育者の逮捕に関する偽装行為（輸入証明書）」、愛知県支部佐藤氏の「支部と密対連の連携で密漁を摘発した事例」などなど。まだまだ多くの事例が続きました。

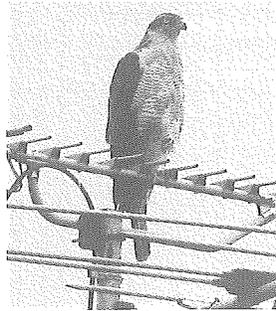
2日目は「違法販売と輸入規制」。

中国の野鳥市場と輸出の実態が、遠藤公男氏から報告されました。

フリーディスカッションを経て正午ころ終了。密度の濃いシンポジウムの一端をご紹介します。ああ疲れた！

早起きはオオタカの得

山部直喜（三郷市）



8月26日朝5時。いつもと違うチョウゲンボウの声に目覚めて外を見た。向かいの14階屋上のアンテナにとまっている影にモビングを繰り返している。

双眼鏡を取り出す。「……オオタカだあ〜」。朝焼けが残る光の中でも、白い眉斑、黄色の虹彩、白い下面の細い横じまがよく見える。おそらくメス。小粋に左足をちょこんと上げている。チョウゲンボウのモビングには、首を少し回して、目で制している。なかなかの貫禄だ。

ふとまわりを見ると、カラスが30羽近くあちこちのアンテナに集まって来ている。5時35分、カラスの包圍網が半径50mほどになったところで、南東の方角に飛び去った。

はみ出し行事案内

長野県・白馬山麓探鳥会（要予約）

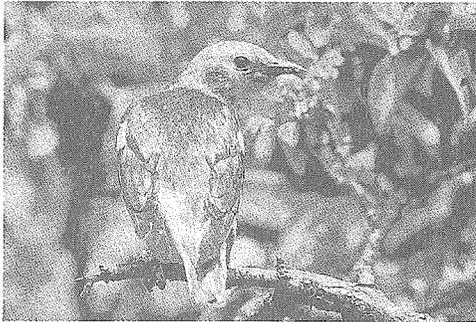
- 期日：11月2日（日）～11月3日（月・祝）
- 集合：2日午前7時30分、JR高崎線深谷駅北口駅前広場。
- 交通：往復とも貸し切りバスを利用。
- 費用：20,000円の予定（泊3食、バス代、保険料など）。万一過不足の場合は当日精算。集合駅までの往復交通費は各自負担。
- 定員：20名（先着順、最少催行人員15名、支部会員優先）。
- 申し込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、を明記して、小池一男まで。
- 担当：小池（一）、岡安、小池（順）
- 見どころ：赤、青、黄色は鳥だけではなく。木々の紅葉、木の実、草の実、早朝のモルゲンロート、温泉などなど、白馬の秋は彩り満載。今回は深谷から現地までのバスの旅です。
- 注意：◆雨具、防寒具は必ず持参。ハイキングのできる足揃えで。
◆宿泊は男女別の相部屋です。個室はご用意できません。

蓮田市黒浜 ◇7月22日、上沼近くでコムクドリ♂1羽、♀1羽、若鳥1羽。8月1日、上沼に浮かぶ太陽光発電パネルの上でササゴイ1羽、当地で見るのは初めて。8月13日夕刻、草の繁った休耕田でタマシギ♂1羽、草の中にじっと伏せてこちらを見ていた(鈴木紀雄)。

蓮田市江ヶ崎 ◇7月22日夜、ホテルを探しに行ったら、遠くで「コウ、コウ」と鳴く声。結局、集落を一つ隔てた江ヶ崎の休耕田でタマシギ♀1羽が鳴いているのを発見。懐中電灯で照らしても平気。鳴きだす前に「ウ〜ウ〜」ともった声も出していました。他にオオジシギ?1羽。7月23日、県道蓮田杉戸線の電線のムクドリ大集団の中にコムクドリ♂2羽、♀及び若鳥8羽。8月16日、休耕田でタマシギ♂1羽♀1羽。8月19日、同所でタマシギ♂1羽、ジシギ類1羽。ジシギ類は明らかにタシギではなく、チュウジシギかハリオシギかと思われた。尾の突出が少なめだったが、体の左側面しか見られず、三列風切をアクシデントなのか欠いているようだったり、結局不明のまま(鈴木紀雄)。

さいたま市丸ヶ崎 ◇7月22日、水田の畦に3羽のスズメの内、バフ変個体1羽。全体に白っちゃけて頬の黒斑も薄茶色(鈴木紀雄)。

岩槻市城町 ◇7月24日、新曲輪橋たもとの電線でコムクドリ3羽。8月17日、新曲輪橋の西側でコムクドリ♂5羽♀または若鳥



コムクドリ (編集部)

4羽を確認。とにかく今年はコムクドリをよく見る(鈴木紀雄)。

岩槻市文化公園 ◇8月8日、ムクドリ群中にコムクドリ2羽程(鈴木紀雄)。

岩槻市小溝 ◇8月8日、電線上のムクドリ群中にコムクドリ10+ (鈴木紀雄)。

岩槻市大戸 ◇8月21日、乾いた草地でオオジシギ(鈴木紀雄)。

春日部市新方袋 ◇8月1日、電線上のムクドリ群中にコムクドリ約10羽(鈴木紀雄)。

春日部市一ノ割 ◇8月2日午後6時21分〜6時40分頃、西部浄水場の南方・安之堀川左岸=東岸にある稲田の中の休耕田、雑草が生い茂っていない泥田でコアオアシシギ2羽、盛んに水面上の小さな虫をついばむ。他にカルガモ、コサギ、ダイサギ、コチドリ、パンの親子など。8月3日午前5時59分〜6時30分頃、昨日のコアオアシシギ2羽を観察。離れていても、突然2羽とも飛び立ち、大きくS字状に遠方へ去った。5分〜10分経って見ると、戻っている。時々、こういう行動をとっているようだ。同日午後3時45分頃、2羽がまだ盛んにハエのような虫をすばやく捕らえたり、水の中にくちばしを突っ込んで採餌。8月7日午前9時41分、1羽だけ残留を確認。同日午後4時50分、朝の1羽を確認。8月10日、この日は、午前8時20分頃と午後4時12分の2回休耕田を訪れたが、最早、餌を取り尽くしたようでコアオアシシギの姿はなかった。台風10号通過と共に飛去したようだ(石川敏男)。

春日部市谷原新田 ◇8月3日、電線、木立にコムクドリ100羽以上。多さにビックリ(鈴木紀雄)。

春日部市下大増新田 ◇8月12日、休耕田でキジ♀1羽、若鳥4羽。「ジェツ」と鳴いてジシギ類逃げ飛ぶ。翼下面白っぽく、次列風切線の白がはっきり見えたのでタシギと判断。8月16日、車中からトケン類の飛翔を見る(鈴木紀雄)。

春日部市不動院野 ◇8月16日、休耕田でコアシシギ3羽(鈴木紀雄)。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇7月24日、

A区でコチドリ4羽、イカルチドリ1羽。くちばしの長さ、脚の長さ、体の大きさ、色合いなどがよく比較できました。8月18日、同所の休耕田でジシギ類1羽、アカエリヒレアシシギ7羽。アカエリヒレアシシギはほとんど冬羽になっていた。8月21日、同所でジシギ類7羽。草の中で判別困難。タシギはいないと思われた。オオジシギと考えられるものや、顔の赤みが強く、上面羽緑淡色が細く真白な個体など、いろいろなものがいた。8月26日、同所でヒバリシギ4羽、トウネン5羽。8月27日、同所でトウネン4羽。Aside区でタカブシギ1羽（鈴木紀雄）。◇8月17日、A区でムナグロ60十、チュウジシギ6十、ショウドウツバメ多数。8月23日、同所でヒバリシギ4羽、タカブシギ4羽。8月24日、同所でヒバリシギ3羽、タカブシギ2羽、トウネン6羽。2日続けて猛暑。背中羽根を上げている個体が多かった（海老原美夫）。

さいたま市下野田 ◇7月30日、小さな調整池でキンクロハジロ♂2羽♀1羽。越夏でしようか（鈴木紀雄）。

毛呂山町旭台 ◇7月5日午前7時30分頃、自宅近くの林でオオタカ幼鳥1羽。見晴らしのきく高い木の枝にとまっては、林外を飛ぶ小鳥を追いかけていた。朝食の狩りか（増尾隆）。

川本町上原 ◇7月17日、白髭神社鎮守様の杜の西外の畑でハクセキレイの親鳥2羽と幼鳥4羽がいて、その中にコチドリが1羽いた。ここ周辺では初めて確認できた（大澤あつし）。

富士見市南畑 ◇7月8日、難波田城公園西門前の竹林がサギのコロニーになっています。ゴイサギ、コサギが主体、今ヒナの鳴

き声が騒々しい。このコロニーは3年前からとか（久保田忠資）。

川越市南古谷 ◇8月21日、休耕田でクロツラヘラサギ1羽。トビ3羽、南から北へ飛翔（鈴木紀雄）。

川越市伊佐沼 ◇7月8日、コアジサシの親子5羽が水上を乱舞（久保田忠資）。◇8月21日午後3時頃、クロツラヘラサギ1羽、蓮田のフェンスにとまっていた。すごく近くで見られて、双眼鏡だけでも十分観察できた。近くで写真を撮っていた人の話だと前日8月20日から来ているとのことでした。8月22日午前8時頃、中洲の普段サギが晴にしている木の上でクロツラヘラサギがポツンと1羽。8月25日、26日にも観察できた（鈴木康夫）。◇8月26日、クロツラヘラサギ1羽、あの長いくちばしでの羽繕いごころうさん（鈴木紀雄）。

川越市寺井 ◇8月26日昼頃、全共運川越事務所の裏の水田でタゲリ2羽。駐車場から事務所に向かう途中の道を歩いていたら、「ミュー」と鳴いて、近くの田んぼから飛び立ちふわりふわりと飛んで行った。もう来ているのだろうか。それにしても早すぎると思うのだが。毎日歩いている道だが、この時期にタゲリを見たのは初めて（鈴木康夫）。

所沢市山口 ◇8月28日午前7時10分頃、自宅前の民家のアンテナにツミ♂1羽がオナガ3羽ととまっていた。声で気づき外を見ると、別に争うでもなく、オナガと一緒に2、3分とまっていた。飛び立った数分後、今度はカラスにモビングされ、南の方向に飛び去った。その方角は、今夏3回ツバメにモビングされているツミを見たのと同じだった（小林茂・ますみ）。

表紙の写真

ヒバリシギ（チドリ目シギ科オバシギ属）

さいたま市大久保農耕地A区。最近自転車や徒歩で鳥を見ている人は少数になった。自動車は確かに便利だと思う。暑さ寒さも、エアコンの効いた車内に逃げ込めば避けられるし、雨が降っても、車内から撮影できる。だが、その分だけ暑さ寒さの厳しさを実感する機会は減るのではないだろうか。雨が降りそうかどうか、皮膚感覚を研ぎ澄ますことも、鳥が近づくのをじっと待つ楽しみも。

自転車の鳥見人（さいたま市）

行事案内



エゾビタキ 蝦夷鶇
*Muscicapa
griseisticta*
14.5cm

(富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちがあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般 100 円、会員と中学生以下は 50 円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後 1 時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出でください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月5日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス 8：40 発にて「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、樋口

見どころ：エゾビタキやコサメビタキが寄っていたり、トケン類が滞在したこともある石戸宿ですが、今年の秋はどんなでしょうか？ サシバの渡りに期待しましょう。ツリフネソウの群落が見ごろを迎えています。

がけない出会いを期待して、野辺を歩きましょう。

注意：調節池工事のため、コース変更の場合があります。

さいたま市・秋ヶ瀬大久保農耕地探鳥会

期日：10月5日（日）

集合：午前8時、JR 浦和駅西口バスロータリー、集合後バスで現地（やつしまニュータウン）へ。

担当：福井、楠見、小林、海老原、倉林

見どころ：季節の変わり目の鳥見。予測はなかなか当たらない。サギも出るといつて出なければサギになるし、サギが出れば、文句なし本場のサギだ。去年は4種のサギが揃い踏みでした。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

〈差間コース〉

期日：10月5日（日）

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅西口バス1番乗り場から、大崎園芸植物園行き 8：31 発に乗車にて、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、工藤、倉林、吉岡(洋)、若林、新井(勇)、土澤、石田、赤堀

見どころ：天候不順だったこの夏、渡りの鳥たちは、元気に渡って行くのでしょうか、気になることです。

さわやかな時季になりました。思い

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月12日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9：11 発、または寄居 8：49 発に乗車。

担当：中里、和田、森本、後藤、倉崎、高橋(ふ)、藤田、栗原、大澤、飛田

見どころ：また鳥見の季節が巡ってきました。夏鳥、冬鳥バトンタッチの時季です。夏鳥を感謝で送り、冬鳥には期待を込めて迎えましょう。モズの高鳴きを聞きながら、大麻生の土手を歩いてみませんか。きっと何かいいことがありますよ。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月18日（土）午後1時～2時ころ

会場：支部事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月19日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館。

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、兼元、森（力）、清水、小菅、新部、赤堀

見どころ：見沼田んぼの秋。今年こそゆっくりと秋の見沼を楽しんでみましょう。いろいろな木々や畑の作物が風に吹かれています。冬鳥も芝川や斜面林にやってきました。家族そろってお出てください。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月19日（日）

集合：午前8時15分、東武日光線柳生駅前または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:11→春日部7:25→栗橋7:54→柳生8:04着。またはJR宇都宮線大宮7:08→栗橋7:43着にて、東武日光線乗り換え。

解散：午後12時ころ、谷中村史跡駐車場。

担当：橋口、玉井、内田、田邊、四分子、中里、田村、伊藤（隆）

見どころ：谷中湖にも冬鳥のシーズンが到来し、カモが到着します。先シーズンはコクガンが思いがけない目玉でした。今シーズンは何が現れてくれるか、胸どきどきで期待しましょう。コースは谷中湖を回り、谷中村史跡の林でも冬の小鳥を探します。昼食持参でお出かけください。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月25日（土）～10月26日（日）

若干の余裕があります。本誌9月号を見て、

今すぐ申し込みをしてください。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月25日（土）

集合：午前9時30分、県立さきたま資料館前レストハウス。

交通：JR高崎線吹上駅北口より、朝日バス行田車庫（佐間経由）行き8:52発にて、「産業道路」下車、徒歩約15分。

担当：内藤、岡安、和田、立岩、石井（博）、栗原

見どころ：北の国から冬越しの鳥たちが渡ってきます。心地よい気候が続く、実りの秋です。鳥たちもきっと同じように感じて、秋の採餌をしているに違いない。そんな鳥たち、第一陣で渡ってきて古墳の池に羽を休めるカモたちを楽しみましょう。

川越市・西川越探鳥会

期日：10月26日（日）

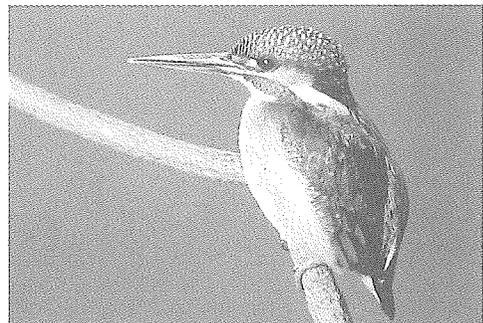
集合：午前9時10分、JR川越線西川越駅前。

交通：JR埼京線大宮8:36→川越にて8:57発に乗り継ぎ乗車、西川越下車。

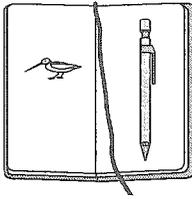
担当：佐久間、長谷部、山本（真）、中村（祐）、池永、山本（義）、山田、池内

見どころ：野山も色づき始めてきています。鳥たちも移って来ていますが、夏の影響で早いのか、それとも遅いのか、興味のあるところですよ。ここではモズ、サギ、タカ、カワセミなどが、北からの鳥たちを待っています。

「はみ出し行事案内」が5頁にあります。



カワセミ（編集部）



行事報告

2月23日(日) 本庄市 坂東大橋

参加: 18人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ トビ オオタカ ノスリ ハイロチュウヒ チョウゲンボウ ハマシギ キジバト アカゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ ホオジロ コホオアカ カシラダカ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) カモの中にアメリカヒドリが混じっていた。オオタカ、ノスリ、ハイロチュウヒ、チョウゲンボウと猛禽も。しかし、特筆すべきは、前年9月の探鳥会とほぼ同じ場所で、再びコホオアカを観察したことだ。越冬したのか? (北川慎一)

5月5日(月、休) 蓮田市 黒浜沼

参加: 74人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ カルガモ ヒドリガモ オオタカ コジュケイ キジバン ムナグロ キョウジョシギ キアシシギ イソシギ タシギ コアジサシ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ツグミ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 大分進んでもお目当てのムナグロ始めシギ・チの姿は全くなし。「まさか……」。さらに進んだところで、やっとムナグロの群れ。中にはキョウジョシギ、キアシシギも。そこにオオタカが現れ、ムナグロをめがけた狩りを。一時の心配が吹き飛んだ。サギ類が今年も少ないのが気になったが、無事終了。結果良しの探鳥会だった。(田中幸男)

5月4日(日) 加須市 はなさき公園

参加: 35人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オオタカ ハヤブサ チョウゲンボウ キジ コチドリ オジロトウネン コアジサシ シラコバト キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ コヨシキリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 汗ばむような陽気になった。スタートしてすぐさまハヤブサ、オオタカが顔を見せてくれた。幸先がよい。屋敷林に出るとフジの花がみごとに色づいている。菜の花の黄色と相まって紫色が映える。アシ原に出るとヒバリ、オオヨシキリ、セッカたちが盛んに喉を競い合う。貯水池では今年もコアジサシの華麗な舞を堪能できた。青毛堀川沿いの浄水場の建物でチョウゲンボウが営巣の様子。間近にじっくりと観察できた。まさしく春爛漫の探鳥会だった。(中里裕一)

5月5日(月、休) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 58人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ ホシハジロ バン コチドリ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ ミユビシギ キアシシギ イソシギ オオソリハシシギ チュウシャクシギ ユリカモメ コアジサシ キジバト ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 潮が引くにつれて、海からシギ・チがやってくる。メダイチドリ、ダイゼン、オオソリハシシギなどで少しずつ干潟が「つくだ煮」に近くなる。でもハマシギとミユビシギが1羽ずつの谷津干潟も珍しい!(杉本秀樹)

5月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 34人 天気: 薄曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ トビ コジュケイ キジ コチドリ イカルチドリ コアジサシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ツグミ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) ゴルフ場に沿って一本榎を越え、花の盛りのニセアカシアの林を巡った。ホオジロやウグイスが朗らかにさえずり、ヒバリやセッカは高らかに歌う。河原は少し寂しかったが、コアジサシが颯爽と現れて探鳥会は終了。(榎本秀和)

5月17日(土) 『しらこぼと』袋詰め会

ボランティア: 13人

新井浩、荒木恒夫、江浪功、海老原教子、大坂幸男、佐久間博文、島田貴子、原田譲、藤掛保司、藤野富代、松村禎夫、百瀬修、渡辺俊朗

5月18日(日) さいたま市 三室地区

参加: 93人 天気: 曇

カイツブリ カワウ カルガモ オオタカ チョウゲンボウ コジュケイ キジ バン キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス ハシボソガラス (23種) 青葉の季節。参加者が多数で、元気である。前日からの雨で芝川は増水していたので鳥の数が少ない。青葉の鑑賞と斜面林の小道と屋敷林を訪ねた。でもカッコウやオオヨシキリ、オオタカ、キジ、チョウゲンボウが出現して、終わってみれば、めでたしめでたしだった。(楠見邦博)

5月24~25日(土~日) 長野県 戸隠・飯綱高原

参加: 32人 天気: 晴

カイツブリ アオサギ カルガモ オシドリ ハチクマ トビ チョウゲンボウ キジ キジバト カッコウ ツツドリ ホトトギス ヨタカ アオゲラ アカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コマドリ コルリ マミジロ クロツグミ アカハラ ウグイス オオヨシキリ メボソムシクイ センダイムシクイ キクイタダキ キビタキ コサメビタキ エナガ

コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ ホオジロ ノジコ アオジカワラヒワ ウソ イカル ニュウナイスズメ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (56種) 今年は善光寺のご開帳の年に当たり、長野駅はごったがえしていたが、無事全員集合し、最初の目的地である一ノ鳥居園地に向かう。早速キビタキやハチクマが出迎えてくれた。今年は小鳥の密度が濃いまいだ。アカゲラ、ニュウナイスズメもじっくり観察できた。後はお決まりのコース。大座法師池はちよっと寂しかった。翌日、元気組は早朝探鳥に向かう。オオジシギは残念だったが、小鳥のコースを堪能し、コルリ、サンショウクイ、ノジコ、キクイタダキなどを観察できた。朝食後も快調でマミジロ、ウソなどもよく観察できた。最後まで鳥の出がよくて、おまけに、花も楽しめ充実した探鳥会だった。(菱沼一充)

5月25日(日) 狭山市 入間川

参加: 35人 天気: 曇

カワウ ササゴイ カルガモ コガモ キジ コチドリ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 5月の「見どころ」にしたオオヨシキリとササゴイは予定どおり見ることができた。しかし、出現率98%のコサギが見られず、また、5月の探鳥会では初めてコガモが見られるという意外な記録となった。予想通りに鳥が見られるのは楽しいが、外れるのもまた楽しい。

(長谷部謙二)



アオアシシギ (編集部)

TEL 048-521-9462 FAX 048-522-1840
a0142154@pref.saitama.jp

連絡帳

●普及部長交代しました

1997 年から 6 年間普及部長をつとめていた榎本秀和が体調上の理由で退任、橋口長和に交代しました。榎本さん、お疲れ様でした。今後も幹事・リーダーとしての活動は続けられます。

橋口長和は、1997 年幹事に就任、ホームページやしらこぼと見つけ隊委員長などを担当してきました。

●本部もいろいろ変わりました

小林専務理事と久保田・林・沢島常務理事の 4 名が退任し、次の体制になりました。

執行役員：小杉隆会長・佐藤仁志常務理事・木村春夫理事

事務局：飯塚利一事務局長心得・原元奈津子総務室長・古南幸弘自然保護室長・小林豊会員室長・葉山政治サンクチュアリ室長・箱田敦只普及室長

寄附行為の改定作業が一段落したのを機にそれぞれの事情で 4 名が退任。この際、大幅に事務局に運営を任せる形に移行しようという決断です。事務局人事も、職員たちの話し合いの結果が大きく反映されました。

●シラサギ情報の結果と再度お願い

7 月号本欄にシラサギの夏ねぐらとコロニーの情報提供のお願いを掲載しました。その結果渡辺俊朗氏から、妻沼町江袋沼・熊谷市奈良・花園町小前田・花園町中学校・川越市びん沼・上尾市領家・越谷市中島・久喜市本町、計 8ヶ所の調査結果が届きました。

この 8ヶ所以外の情報をお持ちの方は、引き続きご連絡をお願いしますとのこと。

〒360-0831 熊谷市久保島 1372、埼玉県農林総合研究センター生産環境担当、渡辺俊朗宛

●シンポジウム「河川に生きるカワウと人との共存の道を探る」

日時：10 月 26 日（日）10:00～16:00

場所：日野市 WING リコーホール

対象：カワウに関する調査や探鳥会をやっている人。河川で環境教育等の活動をしている人。カワウに関心のある人。定員 80 名。

問い合わせ：(財)日本野鳥の会自然保護室カワウ担当 〒191-0041 日野市南平 2-35-2
kawau@wing-wbsj.or.jp

TEL 042-593-6872 FAX 042-593-6873

●10 月の事務局 土曜と日曜の予定

4 日（土）11 月号編集作業。研究部会議。普及部会議。

11 日（土）11 月号校正。

18 日（土）袋づめの会。

19 日（日）役員会。

●会員数は

9 月 1 日現在 2,508 人です。

活動報告

8 月 9 日（土）9 月号校正（海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司、山田義郎）。

8 月 17 日（日）役員会（司会：石川敏男、各部の報告・関東ブロック協議会への提案議題と出席者・普及部長の交代・その他）。

編集後記

例年よりも 1ヶ月も早くオオハクチョウが岩手県に渡って来たと報じられている。冷夏にだまされたとなると、夏鳥はあわてて南に渡って行き、冬鳥は早くからにぎやかに、ということになるけれど、鳥の世界にもドミノ現象はあるのだろうか。（内藤）

しらこぼと 2003 年 10 月号（第 234 号） 定価 100 円（会員の購読料は会費に含まれます）

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1 階

（財）日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社